

令和 5 年 2 月 24 日

教 育 長 様

研究コース	
B グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
561157	
選定番号	213

代表者 校園名： 大阪市立明治小学校
 校園長名： 酒居 国宏
 電 話： 06 - 6531 - 0695
 事務職員名： 荒井 美沙
 申請者 校園名： 大阪市立明治小学校
 職名・名前： 校長・酒居 国宏
 電 話： 06 - 6531 - 0695

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ		子どもの主体的な思考、判断を大切にし、安全・安心を築く生活指導		
3	研究目的		子どもにとって安全で安心して成長できる社会（学校、家庭、地域）を実現するためには、学校において組織的な生活指導をきめ細かく行い、子どもたち自身が主体的に考えたり、望ましく自己判断、自己決定できたりする力を身に付けるよう働きかけることが大切である。そして、自らの安心は自らの学びによってより確かなものにしていくよう子どもたちを指導・支援していくことが生活指導の目的であると考える。いじめの未然防止や児童虐待防止、不登校の改善、防災・減災、防犯意識の向上などに関わって、専門家や関係諸機関との連携を図りながら、実践的な研究を進め、より効果的な生活指導の方策を明らかにしていくようにする。明らかにできた内容については、全市校園に対してその成果を発信する。		
4	取り組んだ研究内容		<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5pt イント)</p> <p>1) 4月21日に明治小学校にて研究グループの全体会議を開き、昨年度までの研究の成果と課題についてグループ内で共有した。そして今年度の研究テーマに基づき、研究の年間計画を立てた。その後、5月に研究グループ間で研究の進め方について文書による意見交流をしながら連絡を取り合い、協議した。6月7日に明治小学校において研究部会を開き、研究活動の進め方についての確認、2年次発表の概要についての協議、授業研究会のテーマ（課題）についての協議、研修会の企画についての協議をそれぞれ行った。7月5日に明治小学校において研究部会を開き、2年次発表の場所や時程、講演の講師についての協議、授業研究会の計画についての協議、研修会の企画についての協議、8月の学習指導基本研修の内容についての協議をそれぞれ行った。また、各所属校の生活指導的に関わる課題について交流した。9月27日に明治小学校において研究部会を開き、2年次発表の詳細な時程の協議、各テーマごとの授業研究会の内容協議、2年次発表までの大まかなタイムスケジュールの確認、生徒指導提要の改訂についての共通理解を行った。12月26日に明治小学校において研究部会を開き、2年次発表についての準備について協議した。1月19日に研究部会を開き、研究発表の内容について協議した。1月24日に塩草立葉小学校において研究部会を開き、研究発表内容について最終確認を行った。</p> <p>2) 研究授業を実施し、いじめの未然防止・児童虐待防止・安全安心の保持についての効果的な指導について明らかにするため実践研究に取り組んだ。 いじめの未然防止をテーマにした研究授業…小路小学校3年 田島南小学校6年 児童虐待防止をテーマにした研究授業…南百済小学校6年 小路小学校3年 安全安心の保持をテーマにした研究授業…敷津小学校5年 鶯洲小学校2年</p> <p>3) 全市教職員に向けた生活指導に関する研修会を企画し、参加者が学びを深める場を設けた。9月6日研修テーマ「学校安全の考え方と進め方」講師（大阪教育大学 教授） 2月27日研修テーマ「子どもの生活・願いと不登校の支援 - コロナ時代のなかで - 」講師（立命館大学大学院 教授）</p> <p>4) 研究の成果と課題について発表し、関連のテーマで講演の機会を設けた。2月3日 いじめの未然防止・児童虐待防止・安全安心の保持の各テーマで研究実践報告 講演テーマ「安全で秩序ある学級づくり～子どもたちの視点からいじめを考える～」講師（桃山学院教育大学 教授）</p>		

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。							
		日程	令和 5 年 2 月 3 日	参加者数	約 130 名				
		場所	大阪市立浪速区民センター						
備考									
		大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。							
<p>【見込まれる成果 1】 いじめを許さない態度を身に付け、いじめ防止に向けた児童の意識を高める。また、自尊感情や規範意識を高め、子ども自らが自信を持って自らの生活を切り拓く力を高める。</p> <p>《検証方法》 ○グループ研究申請校の児童アンケートで、「自尊感情」「規範意識」について、肯定的な回答を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>「自分には良いところがある」という問い合わせに対する肯定的な回答の全校児童の平均回答率は、79.2%であった。「学校のきまりを守っているか」という問い合わせに対する肯定的な回答の3年生～6年生の平均回答率は、90.9%であった。自尊感情の目標値にはやや届かなかったが、規範意識に高まりが見られた。子どもたちが自分の良さに気づいたり、自分の生活を見直しながら学校生活を送ったりできる力を身に付けることで、いじめを許さない集団が育成できるものと考えを深めることができた。</p>									
		<p>【見込まれる成果 2】 児童が安心して学校に登校し、学級集団や学年集団に確かな居場所を得て、充実した学校生活を送ることができる。</p> <p>《検証方法》 ○グループ研究申請校の保護者アンケートで、「学級集団づくり」「学年集団づくり」について、肯定的な回答を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>保護者向けの学校評価アンケートにおいて、「学校はよい学級・学年集団づくりにつとめているか」という問い合わせに対する肯定的な回答の割合が95.8%であった。保護者から見ても学校の望ましい集団づくりの取り組みは肯定的な評価を受けている結果であった。学級や学年の集団に子どもたちの居場所があるということは、子どもたちにとって学校が安心できる場所であるための重要な指標である。今後も学校の責務として継続していきたい。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>いじめ防止や早期発見、早期対応のための教員の指導力を高める。児童虐待防止や早期発見のための教員の力量を高める。</p> <p>《検証方法》 ○いじめ防止や児童虐待防止、自殺防止に関する研修会を複数回行い、参加者に対するアンケートの満足度を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>学校安全の進め方やいじめ防止や早期発見、不登校の理解と支援につながる研修会を合計3回実施した。どの研修会についても、参加者の研修会後のアンケートにおいて、その満足度に対する肯定的な回答の割合は、100%であった。初めて知ったことや認識が深まったことがあったという感想を数多く聞かれ、教員として力量を高めるきっかけとなる研修会であった。</p>							
6	成果・課題								

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 いじめ防止や児童虐待防止に向けた授業研究を実施し、教員の指導力、授業力を高める。</p> <p>〔検証方法〕 ○いじめについての研究授業および研究協議を複数回行い、アンケートでの参観者の満足度を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 いじめの未然防止や児童虐待防止、安全安心の保持に関わる研究授業を合計6回実施した。各授業研究会においては、参観者を交えての研究協議の場を持った。研究協議会では積極的な意見交流を行うことができ、参観者の満足度も100%であった。いじめの未然防止や児童虐待防止、安全安心の保持の手立てとして授業実践は、たいへん効果的な指導方法であるとともにその指導の工夫について明らかになった。</p>
		<p>【見込まれる成果5】 中学校生活指導研究会や関係諸機関、専門家などと連携し、いじめへの対応や児童虐待に関する事例を収集し、いじめや児童虐待の事案に対して悩みを抱える教員を支援する。研究成果を全市校園に対して発信する。</p> <p>〔検証方法〕 研究発表参加者を100名以上にし、アンケートでの参加者の満足度を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 2月3日に実施した研究発表会においては、大阪市内の小学校より約130名の参加者があった。参加者のアンケートでは、満足度として100%の回答を得た。感想においても「取り組みやすい授業モデルを提示してもらったので、さっそく自分の学校でも取り組んでみたい。」とか「いじめや児童虐待を防止するためには授業が有効な手立てとなることを見通すことができた。」など、研究内容が大阪市内小学校の実践の広がりを期待させるような内容が見られた。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>【成果】 いじめの未然防止については、具体的な事例に即して考えさせることで、いじめの持つ不適性や子どもたち自身の意識を改善していく必要性に気付かせることができるという点が明らかになった。児童虐待防止では、普段の家庭生活において自分が失敗したり間違いをしたのだから、不当な叱られ方をされても仕方がないと思っている子どもがいることが明らかになった。自分に非があっても、守られるべき子どもの権利はあるんだということを理解させるための一つの手立てについて授業実践報告でモデル提示できた。安全安心の保持では、自己肯定感や自己有用感を持たせる授業実践や集団登校や個別登校など、どちらの形態であっても、安全に対する子ども意識や危機管理意識の大切さについて考えさせる授業実践のモデルについて示すことができた。</p> <p>【課題】 低学年から高学年までをつなぐ系統立った授業モデルを確立していく必要がある。児童の自己選択、自己決定を授業場面でどのように図っていくか、指導の工夫や教材開発をしていく必要がある。</p> <p>《代表校園長の総評》 本研究グループの研究により、授業実践を通して、児童自らにいじめ行為の不適性、児童虐待が子ども権利条約の趣旨から見ても許されないじめを未然に防止し、さらには早期に解決するためには、主体的な児童による話し合いの場を設定し、意見交流をしながらよりよい解決方法に気付かせていく学習過程が有効であることが明らかになった。今後もより効果的な授業実践のあり方を追究していく。また、児童虐待防止にあたっては、子どもの権利条約にある四つの権利に照らして、子どもたちが主体的に自らの権利について理解を深めることで児童虐待防止につなげることができると確信することができた。今後は子どもたちが主体的に意見交流ができるような教材について、どのような教材が適切か、授業実践を通してさらに工夫し明らかにしていくとともに、子どもたちの自己選択や自己決定を大切した学習過程の構築に注力していきたい。</p>

令和 5 年 2 月 24 日

教 育 長 様

研究コース	
B グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
561157	
選定番号	213

代表者 校園名： 大阪市立明治小学校
 校園長名： 酒居 国宏
 電 話： 06-6531-0695
 事務職員名： 荒井 美沙
 申請者 校園名： 大阪市立明治小学校
 職名・名前： 校長・酒居 国宏
 電 話： 06-6531-0695

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 経費執行使途報告書

◇ 「がんばる先生支援」として、経費を次のとおり報告します。

研究テーマ	子どもの主体的な思考、判断を大切にし、安全・安心を築く生活指導		
-------	---------------------------------	--	--

費 目	金 額	備 考
8 旅費	5 普通旅費	
教育センターでの経費執行	計	①
7 報償費	1 報償金	53,690
10 需用費	1 消耗品費	26,369
	4 印刷製本費	
11 役務費	1 通信運搬費	
	4 手数料	
	5 筆耕翻訳料	
12 委託料		
13 使用料及賃借料	1 使用料	
17 備品購入費	2 校用器具費	
	3 図書購入費	
18 負担金、補助金及交付金	5 会費	
学校での経費執行	計	80,059 ②
合 計	80,059	①+②

研究活動にあたって、どのような目的で、どのような物品を購入したのか、主なものを記述すること。
 また、経費執行における申請時からの主な変更点を記述すること。

--

内訳明細

(R04 様式 5-2)

研究コース B グループ研究B

代表校園 大阪市立明治小学校

代表校校園コード

561157

費 　目	内 　容	数量	単 　価	金 　額	実施月
8 - 5 普通旅費					
	費 　目 小 　計				
	講師謝礼 (研修会 講師 藤田大輔)	1	15,230	15,230	9月
	講師謝礼 (研修会 講師 松久眞実)	1	22,560	22,560	2月
	講師謝礼 (研修会 講師 春日井敏之)	1	15,900	15,900	2月
	費 　目 小 　計			53,690	
7 - 1 報償金	研究用図書	1	26,369	26,369	9月
	費 　目 小 　計			26,369	
10 - 1 消耗品費					
	費 　目 小 　計			26,369	
10 - 4 印刷製本費					
	費 　目 小 　計				
11 - 1 通信運搬費					
	費 　目 小 　計				
11 - 4 手数料					
	費 　目 小 　計				
11 - 5 筆耕翻訳料					
	費 　目 小 　計				
12 委託料					
	費 　目 小 　計				
13 - 1 使用料					
	費 　目 小 　計				
17 - 2 校用器具費					
	費 　目 小 　計				
17 - 3 図書購入費					
	費 　目 小 　計				
18 - 5 会費					
	費 　目 小 　計				
合 計				80,059	